ワット・プラケオ回廊のデータベース化への一考察

辻合 秀一 Hidekazu TSUJIAI

概要: タイ王宮ワット・プラケオ回廊のタイ壁画は、ラーマキエンを回廊に一周する形で描かれている。この壁画を説明する本は、ストーリーを説明する中心部分の写真のみが掲載されている。このため、壁画調査のように壁画全体の写真がなく分析用には不向きであった。そこで、分析用の画像データベースを作ることから始めた。本研究では、事前調査からデータベース用の撮影環境まで報告する。

キーワード: 画像処理／タイ画／ラーマキエン

1. はじめに

2006年に壁画家の丹羽洋介先生よりタイ壁画の調査を一緒に行うお誘いがあった。筆者の分担は、画像処理による調査研究および修復作業の画像記録作製ということとなった。

その後、2007年度科研費の助成(2年間)もあり、2007年度春からタイ王宮ワット・プラケオ回廊の現地調査を行うことになった。これにともなう調査用の資料作成などのデータベース化に考察する。

2. 事前調査

2007年6月に第1回目の現地調査を行うことに先立ち、研究調査の準備を行った。まず、タイ王宮ワット・プラケオ回廊^[1]は、タイ王宮内にある壁画であり、観光として写真をとることができる。巨大な施設であり、事前に準備を行わなければ作業を効率的に調査できないことがわかった。巨大な建造物ということで、Google Earthで回廊の概観をチェックした。図1の衛星写真では、茶色の“亜”字型の建造物である。回廊は、屋根があり、複数の門があることがわかる。この回廊には、ラーマキエンの物語がかかっている。ラーマキエンは、タイ版のラーマヤナ^{[3]-[5]}である。

図1 ワット・プラケオ^[2]

この回廊を調査するのに使う全体写真を探したが、取得することが出来なかった。そこで、調査用の全体写真のデータベースを作りつつ、多角的なデータベースを構築することにした。

図2 ワット・プラケオの回廊(王宮内から撮影)

3. 第1回目現地調査

2007年6月に第1回目の調査で筆者は、現物を見てどのようなデータベースにするかを目的とした。まず、『ワット・プラケオ内の壁画の研究』を富山大学(代表:丹羽洋介)とパタナシン大学(BUNDITPATTANASILAPA INSTITUTE, THAILAND)と共同で行うこととなり、王宮の協力も得ることとなった。ワット・プラケオ回廊を実際に見て、研究しての撮影許可を取ることもできた。このことで、調査の場所は、観光者の立ち入り禁止や柵などの移動

を行うことができるようになった。壁画は、178 室あり、建物のどの位置にあるのか確認作業をおこなった。また、王宮内でワット・プラケオ回廊壁画写真が掲載された本^[6]を入手することができた。

そして、共同研究者と共にワット・プラケオ以外のタイ壁画を見たり、タイ画の書き方を作成したり撮影(図5)を行った。

図3 ワット・プラケオの回廊(修復中)

図4 ワット・プラケオの回廊(左に壁画, 中央の柱, 右にその側の柱)

図5 タイ画の実演

4. 第2回目現地調査

2007年8～9月に第2回目の調査を行った。調査前に、現地調査で使う壁画の番号、写真と回廊の位置リストを8頁にまとめたものを作成した。写真は、王宮で購入した本^[6]を用いた。

このリストをベースにして、壁画の位置を再確認するとともに、門、建物の梁や照明の位置のリストを作成した。カラーチェックの有効性やフラッシュの撮影などの撮影なども試みた^[7]。図6～9は、データベース化するための撮影形式とした、全体(図6)、上から分割して、一番上は梁を入れて撮影(図7)、壁画の下にカラーチェッカーを置いて撮影(図9)とした。

データベース化のための写真撮影を 84 室(47%)撮影したところで 2007 年度の撮影は終了した。

壁画は、常に修復されており、王宮スタッフおよび共同研究の方々が重要視するところから撮影を行った。今回、1, 2, 17, 18, 21, 24, 25, 31, 32, 39, 40, 41, 42, 43, 44, 47, 49, 50, 53, 54, 58, 66, 67, 68, 69, 71, 72, 76, 77, 78, 83, 84, 86, 87, 88, 89, 90, 91, 93, 97, 100, 101, 102, 103, 104, 106, 107, 108, 109, 110, 111, 112, 114, 115, 116, 118, 119, 120, 121, 123, 124, 125, 126, 133, 134, 135, 136, 137, 138, 139, 140, 141, 142, 143, 144, 145, 146, 147, 154, 158, 159, 160, 165, 168 を撮影した。

5. まとめ

今回の調査では、すべての壁面を撮影する予定である。また、最終的な撮影法で撮影したものは、限られるため再度撮影しなければならないものもある。

この調査では、複数での調査^{[7]-[10]}を行っており、温度、湿度、製作者、修復者、制作年代、修復年代などを含め可視化を試みる予定である。

本研究は科研費(19401001)の助成を受けたものである。

参考文献

- [1] 『地球の歩き方』編集室, “地球の歩き方 D18 バンコク 2006～2007 年度版”(2006), pp.80-85.

- [2] Google Earth.
- [3] 河田 清史, ラーマーヤナーインド古典物語(上), 第三文明社(1971).
- [4] 河田 清史, ラーマーヤナーインド古典物語(下), 第三文明社(2000).
- [5] 宇都清治, “『ラーマキエン』におけるモチーフの比較研究”, 東京外国語大学論集, No.45(1992), pp.199-222.
- [6] THE RAMAKIAN [RAMAYANA] -MURAL PAINTINGS ALONG THE GALLERIES OF THE TEMPLE OF THE EMERALD BUDDHA-(1981)
- [7] 辻合 秀一, 洞谷 亜里佐, “タイ壁画データベースへの一考察”, 日本図学会2007年度本部例会(高岡)学術講演論文集(2007), pp.31-32.
- [8] 宮原 和香, 洞谷 亜里佐, 辻合 秀一, 丹羽 洋介, “タイの古典絵画—タイ画における描き方のパターンについて—”, 日本図学会2007年度本部例会(高岡)学術講演論文集(2007), pp.19-24.
- [9] 洞谷 亜里佐, 辻合 秀一, “タイ画の表現方法・技術について”, 日本図学会2007年度本部例会(高岡)学術講演論文集(2007), pp.25-28.
- [10] 丹羽 洋介, 辻合 秀一, “タイ王宮の壁画における建物の図法について”, 日本図学会2007年度本部例会(高岡)学術講演論文集(2007), pp.29-30.

図6 ワット・プラケオの回廊

図7 ワット・プラケオの回廊(分割 1/3)

図8 ワット・プラケオの回廊(分割 2/3)

図9 ワット・プラケオの回廊(分割 3/3)

著者紹介

つじあい ひでかず : 富山大学芸術文化学部准教授.
博士(工学). CG および画像処理などの研究に従事.
日本図学会, 芸術科学会, 日本デザイン学会, 情報処理学会, システム制御情報学会, IEEE, ICGG 等の各会員.

933-8588, 富山県高岡市二上町 180